

令和3年度 第2回旭川大雪圏域連携中枢都市圏ビジョン懇談会 会議録

○日時：令和4年3月15日（火）午後1時55分から午後3時25分まで

○場所：旭川市職員会館3階 6号会議室

○出席者

・委員（8名）

平井義正委員，渡辺多賀志委員，大矢二郎委員，片山兵衛委員，武田勉委員，工藤良伸委員，板東康治委員，竹部修司委員

・オブザーバー（7名）

鷹栖町総務企画課 戸島参事，東神楽町まちづくり推進課 佐藤課長補佐，

比布町総務企画課まちづくり推進室地域政策係 齋藤係長

愛別町総務企画課 石川課長補佐兼企画財政係長，上川町企画総務課企画グループ 太田主任

美瑛町まちづくり推進課 宮崎主事，上川総合振興局地域創生部地域政策課 関戸主事

・事務局（4名）

旭川市総合政策部 坂本次長，政策調整課 石崎補佐，石田主査，大島

○会議資料

・次第

・資料1 令和3年度 第2回旭川大雪圏域連携中枢都市圏ビジョン懇談会 出席者名簿

・資料2 第1回懇談会以降の経過

・資料3 連携中枢都市宣言書

・資料4 決議文

・資料5 連携中枢都市圏ビジョン（案）

・資料6 旭川大雪圏域連携中枢都市圏ビジョン（案）に対して寄せられた意見について

○会議内容

1 開会

2 委員紹介（資料1）

各委員，各町からの出席者の紹介

3 懇談会

（1）第1回懇談会以降の経過について（資料2～資料4）

○事務局から説明

（2）議事

ア 旭川大雪圏域連携中枢都市圏ビジョン（案）について（資料5）

○事務局から説明（以下，その概要）

【連携中枢都市圏の名称】

・ビジョン（原案）では上川中部連携中枢都市圏（仮称）としていたが，1月に旭川大雪圏域連携中枢都市圏とすることとした。

【連携中枢都市圏のロゴマーク】

・ビジョン（原案）では空欄としていたが，1月にロゴマークを決定した。

【人口総数，人口及び世帯数の推移，年齢別人口の推移】

・令和2年国勢調査の数値が公表されたため，数値を更新した。

【Ⅲ 連携中枢都市圏形成に係る連携協約に基づき推進する具体的取組】

・令和4年度から実施する新たな取組は，「7 旭川空港の利用拡大」「8 鉄道の利用促進」「9 北海道新幹線の旭川延伸」「13 子育て支援員の養成」「18 要約筆記者の養成」「22 科学館における科学の普及活動」「23 大雪山カムイミンタラジオパーク構想の推進」「27 キャンプ場のネットワーク化」「33 動物の愛護及び管理」「37 ふるさと納税による情報発信」である。

- ・原案に掲載していた「上川中部圏域プロモーション事業」は、R3年度に旭川市でトライアル実施する予定であったが、コロナ禍により実施できなかったため、R5年度からの連携に向け改めて検討していきたい。
- ・令和4年度はこれまでの32の取組に以上の10の取組が加わり、合わせて42の取組を行う。
- ・29ページ以降の具体的な取組については、原案の段階では空欄としていたが、連携協約の内容、成果指標、事業費等を記入した。
- ・（新たな取組の内容について事務局から説明）
- ・毎年度所要の見直しを行っていくことから、各町と協議を行いながら、新たな取組の検討や既存の取組の見直しなども行っていきたい。
- ・第1回ビジョン懇談会で御意見をいただいた、「ヒグマ対策」については、現在、担当部局において広域的な取組を検討している。
- ・同じく介護分野については、広域化することによるスケールメリットなどの想定が難しく、旭川市としては各町から要望や意見が寄せられれば、広域で実施できないか検討したい。
- ・また、令和4年度は、1市8町の職員が集まる会議の回数を増やし、より丁寧に議論を行っていききたい。

○委員からの質問・意見

- （委員）令和4年度の事業費総額はどうなっているか。
→（事務局）令和3年度からは取組数も増えていることから、事業費総額も増えている。
- （委員）地域医療について、何かあれば旭川市に頼っているが、今後もよろしく願いたい。
- （委員）連携中枢都市圏は一般の住民には直接的に影響がなく、関係がないと思われがちなので、住民への周知も積極的に行ってほしい。
→（座長）報道機関にも積極的に情報開示していきたい。
- （委員）新型コロナウイルス感染症について、福祉分野では施設間で情報交換などを行っているが、そういった情報交換や協力体制の構築を、行政が間に入ってやってくれるとありがたい。
→（座長）緊急時の連携体制など、日頃から備えておくことが重要である。
- （委員）1市8町の住民に具体的に周知していくことも重要である。
- （委員）決議文は、今回初めて作ったものか。また、今後連携事業に盛り込まれていくのか。
→（事務局）今年1月に初めて首長サミットを実施し、意見交換の結果をまとめたもので、初めて作成した。今後、連携中枢都市圏に盛り込むことも含めて、各町と協議を行っていききたい。
- （委員）冬期間、休日に患者を旭川の当番医まで連れて行くのが大変である。冬だけでも当番医を増やすなどの対策があると助かる。
- （委員）医療従事者について、養成学校には新規では入りにくい状況があると聞く。旭川市から斡旋するなどの仕組みが取れないか。
- （委員）地場産業の振興について、各自治体の商工会が持ち回りでイベントを実施するなど、住民に連携していることが伝わる取組も検討してほしい。
- （座長）ジオパークについて、この地域は地質学的に地震が少ないという特徴があり、恵まれた地域であることを認識して取組を進めてほしい。そういったメリットを吸い上げる取組でありたい。
- （座長）42の取組をバラバラに扱うのではなく、関係する取組をリンクさせることでより効果が出てくるのではないか。
- （座長）バスについて、旭川市では70歳になると市内どこでも100円で乗車できる制度がある。旭川市内のみではなく、圏域内で使える仕組みを検討しても良いのではないか。高齢化で運転免許を返納する人も増えており、公共的な移動手段の確保が今後更に大きな課題となる。

イ 旭川大雪圏域連携中枢都市圏ビジョン（案）に対する意見提出手続の結果について（資料６）

○事務局から説明

（３）今後の新たな広域連携に向けた意見交換について

（２）の議題と同時に取り扱った。

（４）その他

とくになし

４ 閉会

以 上